

複合型スタジアムにおける施設構成に関する研究

1X16C108-7 摩嶋翼
指導教員 大野高裕

1. 背景と目的

近年日本ではスポーツ産業の成長と既存スタジアムの老朽化に伴い、スタジアム新築・改築のニーズが高まりつつある。様々な制約がある中、管理者制度の改善により、管理および運用を民間に委託することが可能となっている中で、「複合型スタジアム」に注目が集まっている。

「複合型スタジアム」とはスタジアム本体に新たな施設を取り入れたもので、利用目的の増進やにぎわいの創出が期待できる。一大型施設として担う役割を、従来のスタジアムという枠を超えた様々なアプローチで付与できる可能性は魅力的だが、海外や日本で部分的に実例があるのみで施設構成に関する研究はほとんど進んでいない。

さらに現在 J リーグで使用されているスタジアムにクローズアップすると、日本の既存スタジアムのほぼすべてが公共所有のものだが、先述した管理者制度改善により自由度が増えたため、Jクラブやそのスポンサー企業のノウハウを生かしたスタジアムの改築・新築構想のニュースが全国各地で話題となっている。近年徐々に広がるクラブ格差などもあり、最適な複合型スタジアムは一様に定まるものではなく、クラブの特徴によって個性のある理想の複合型スタジアム像があり、盛り込むべき施設についても同様である。金銭的制約等もある中で複合型スタジアムを構想するには、所有者・管理者のみならず、スタジアム利用者（クラブのファンやホームタウンの人々）のニーズの芯を捉えたいものであろう。

本研究の目的は、複合型スタジアム構想に際しての新たな役割と施設候補を整理し、スタジアム利用者側からの複合型スタジアムへのニーズの調査から、スタジアムの新たな役割と施設の組み合わせの志向をクラブと紐付けて考察することである。

2. 研究方法

2.1. 研究概要

はじめにクラブを分類し、役割とそれらを担う施設を整理する。さらにアンケートで回答者にそれぞれ該当するクラブを指定させたのち、いくつかの質問で因子分析を行いクラブ分類ごとの特徴を分析する。最後に数量化理論Ⅲ類により施設間の共通性、役割と施設分類の関連性、クラブ分類によるニーズの違いを検証する。

2.2. クラブ分類

クラブの特徴の中でも、クラブの実績やホームタウンの規模により導入すべき施設が異なると仮定して、Jクラブを直近10年の平均順位とホームタウン人口による6つの分類と該当するクラブのない無関心層を含めた計7分類に振り分ける。

分類1~4はタイトル獲得経験有り又は近年J1に定着しているクラブが該当する。これらはホームタウン規模による違いで分類を行っており、分類1は300万人以上、

分類4は50万人以下のクラブである。これらのクラブにおいてはホームタウン規模の違いによる複合型スタジアムへのニーズに変化があるのではないだろうか。

分類5はJ1に復帰・定着を目指すクラブ、分類6は初のJ1昇格をこれから目指していくクラブである。これら7分類を比較することでクラブの近年の実績による複合型スタジアムへのニーズの違いを明らかにしていく。

ファン層などによる分類ではなく、あくまでクラブによる分類を採用しているのは、スタジアム複合化における恩恵は必ずしもサッカーに結びつかなくてもよいという仮定の下である。スタジアムの複合化により利用目的の増進が期待できるというのは、従来のスタジアムの機能の根底であるスポーツという枠を超えて、よりたくさんの人々が訪れるような役割を担い得るといえる。そのためにクラブへの興味の有無ではなくクラブが抱えるホームタウンの人々全体の意見を踏襲すべくこのような分類で考察する。

2.3. 役割の整理と施設の分類

はじめに複合型スタジアムに付与できるであろう新たな役割を図1のように整理する。スタジアムが従来担う役割をクラブとファンの日常・非日常行動との関係性の直接・間接度合から整理したもので、スタジアムやクラブの関与の容易度順とも捉えている。

次に施設の分類は公共建築協会の施設用途分類[2]を参考にすが、複合型スタジアムにおける施設分類として図1内の4つの役割に各施設を割り振ける。

例えば、商業施設は施設用途分類では産業施設に該当する。それを複合型スタジアムにおける分類では、図1内の役割①においてはクラブオフィシャルショップやスポーツ用品店、フィットネスクラブ等、役割③では専門店や娯楽・サービス施設、役割④では、スーパー、ファストフード店等というように分類している。このようなスタジアム従来の役割から拡張した分類は、逆からたどると一般市民における利用頻度順と捉えることができる。

この分類のメリットは、管理運用者がどのようなスタジアムを創ろうとしているかに対して、施設を導入する戦略に直接結びつく分類であることと考えている。

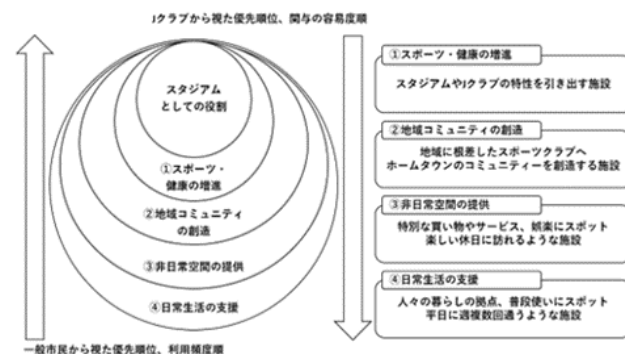


図1. 複合型スタジアムが担い得る役割

3. 検証結果と考察

本研究ではアンケート調査を実施し、有効回答数 432 人に対して、クラブ分類該当者 310 人と無関心層 98 人のデータを用いて検証を行う。アンケートでは回答者に該当するクラブを指定させているほか、クラブやスタジアムへの興味関心を問う 7 つの質問と、複合化するにあたっての 40 の候補施設から最大 10 個を選択させている。

3.1. 回答者の特徴

回答者をクラブ・スタジアムへの関心や要望を問う 7 つの質問を用いて因子分析すると、2 つの因子が抽出される。第 1 因子は寄与率 45.42% でクラブへの興味度を示し、第 2 因子は累積寄与率 59.89% で多様化への期待度を示すと解釈する。回答者の因子得点を比較することで分類ごとの特徴を捉えることが狙いである。

属性別重心からはどの分類内においても熱心なファンからクラブ名を知っている程度の人の因子得点が含まれるため顕著な特徴が出なかった。そこでクラスター分析によって抽出した因子得点での 5 分類を行い、そのクラスターにクラブ分類をあてはめて考察する。クラブ分類とクラスターを照らし合わせる際に、最も割合の高いクラスターを採用し分類しているのが表 1 である。以降はこの 3 つのクラスターを比較していく。

3.2. 施設の組み合わせ志向

選択施設のデータを数量化理論Ⅲ類を行い、施設のプロットと 4 つの役割を照らし合わせると図 2 のようになり、同役割内で概ね密接していることが分かる。つまり利用者側からのニーズとしては同役割内から複数の施設が同時に選択される傾向があるといえる。これは役割による施設分類の妥当性を示すものである。

次に、サンプルスコアにおけるクラスター分類による属性別重心を示しているのが表 1 である。

クラスター 1 は重心周辺のクラスターである。そのためやや役割①②に近接しているともいえるが、どの役割に偏ることもなくニーズが分散している。そしてこれにはクラブ分類 1 と 2 該当する。したがって大都市のクラブ、中都市のなかでもより強豪といえるクラブの該当者の複合化へのニーズは特徴を捉えにくいことが分かる。

クラスター 5 はクラブへの興味度が高く、多様化への期待度が低い分類である。これらのサンプルスコアを図 2 のカテゴリースコアに当てはめてみると役割①のエリア内に位置する。そして該当するのはクラブ分類 4 である。強豪クラブの中でも地方のクラブに特有といえるクラブへの強い興味が、クラブハウス等のクラブの強化や発展に直結するような施設を求めていることが分かる。

それに対してクラスター 2 は第 4 象限にある。クラスター 5 とは対照的にクラブへの興味度が低く、多様化への期待度が高い分類である。これらに該当する無関心層を筆頭とするクラブ分類は複合型スタジアムの役割の中でも多様化に結びつくような役割③④へニーズがやや偏っている。これらのクラブは、日常・非日常を楽しめるスタジアムを望む傾向があり、チームの強化が難しくともバラエティに富んだスタジアムの実現によって人々が来場するきっかけを生み出せるのではないかと考えられる。

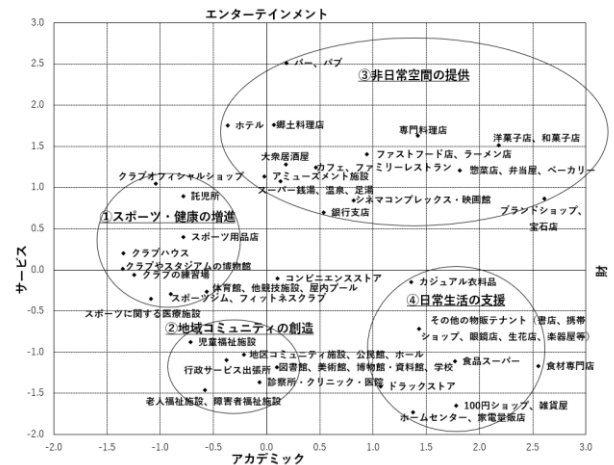


図 2. 数量化理論Ⅲ類によるカテゴリースコア

表 1. クラスターによる属性別重心

クラスター	クラブ分類	1軸	2軸
1	1大都市強豪	-0.1493	-0.0296
	2中都市超強豪		
2	3中都市強豪	0.2829	-0.1974
	5中堅		
	6弱小		
5	7無関心層		
5	4小都市強豪	-0.4893	0.2772

4. 結論と今後の課題

クラブの特徴はいくつかの括りではっきりと分類するのは容易ではない。そして一クラブに対し、ファンとは限らない対象者を含むと意見の特徴が出にくく、全クラブ全対象者を網羅する手法の構築は現実的ではないと考えられる。ただ提案している同役割内で施設が同時に選択されやすいこと、相対的ではあるが、地方のクラブには愛着に結びつくような施設、中堅クラブにはバラエティに富んだ施設へのニーズがあることが分かった。

本研究では管理運用者が自由にスタジアムに付与する施設を構想できるということを前提としており、その際に利用者側にはどのようなニーズがあるかを明らかにするものである。つまりこれらを実現化する側である管理運用者ないしは所有者自身の意向は全く反映されていない。

新スタジアム構想には土地と金銭的制約が大きなネックとなることが間違いない。つまりは理想と現実とのギャップの埋め合わせが最も肝要であり、そのための一つのアプローチとして今回の研究結果が参照されればよいと考えている。

参考文献

- [1] 斎藤洋平, 熊谷亮, 勝俣英明: “サッカー競技場の複合実態に関する調査研究 (建築計画)”, 2003 年度日本建築学会関東支部研究報告集 74, pp.85-88(2004)
- [2] 公共建築協会「施設用途分類」,
https://www.pbaweb.jp/img/content/20171124_施設用途分類.pdf, 最終閲覧日: 2020/01/05